

## 寄附金ご協力をお願い

### 高知大学医学部附属病院 臨床研究教育・人材育成センター

医学・医療機関は、研究の種（以下シーズ）を臨床研究へと発展させ、国の医療向上に貢献することが肝要です。医育機関である高知大学医学部（以下本学）も、この臨床研究の発展に日々尽力しておりますが、独創的シーズ開発・臨床研究推進、そして最重要である中央省庁および関連機関との深い関係性においては、十分な状況とは言えません。

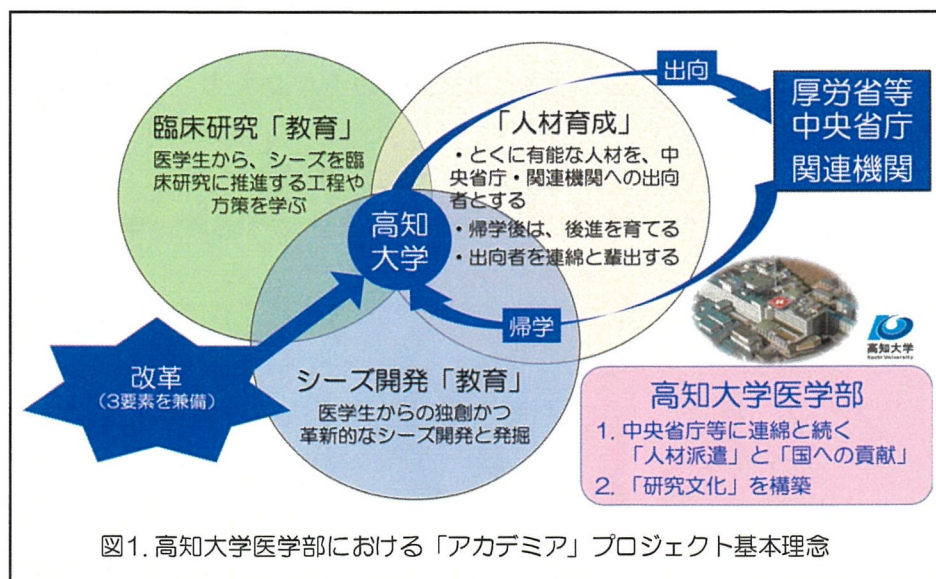
この現状を改善し、本学の研究分野とくに臨床研究を強靱なものとするには、

1. 独創かつ革新的なシーズを開発するべく、医学部生の時期から「教育」すること
2. そのシーズを臨床研究として推進するべく、医学部生の時期から「教育」すること
3. 以上の「教育」により、とくに有能と認める人材（医師・メディカルスタッフ等）は、中央省庁および関連機関に循環的に出向させて高いキャリアを積む「人材育成」を行うことが重要と考えます。

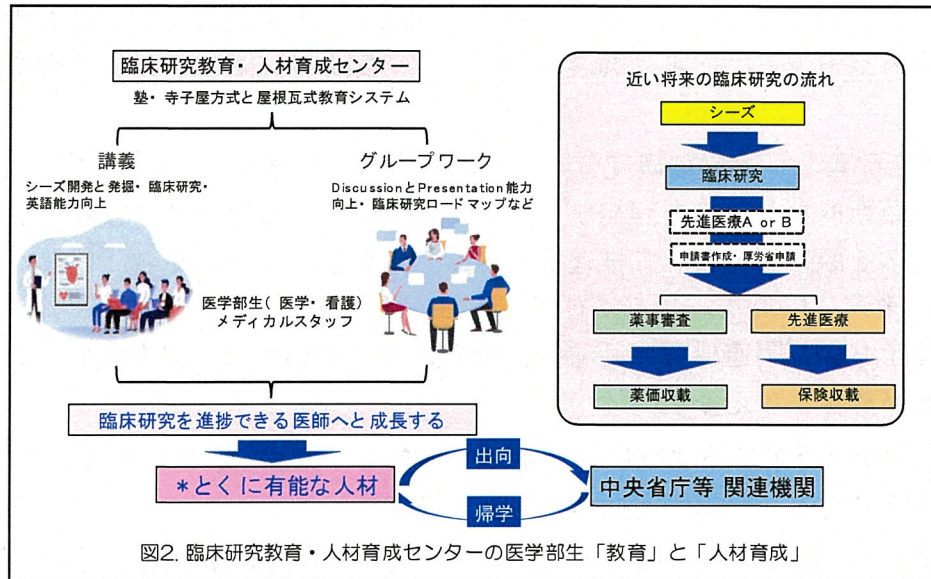
多くの大学がそうであるように、本学においても、医師・メディカルスタッフによる「シーズ開発」と「臨床研究推進」は行ってきました。

しかしながら、臨床研究を推進するために、医学部生初期から臨床研究の重要性やそのプロセスを「教育」し「人材育成」すること（early exposure）が必要であり、それを基本理念（図1）とする医療機関はありません。

臨床研究を自ら推進できるように医学部生を「教育」し、更には中央省庁および関連機関で職責を果たすことができる「人材」を連綿と「育成」することで強靱な関係性が構築され、他大学には例をみない傑出した大学になると考えております。それゆえ、本学医学部では「臨床研究教育」と「人材育成」を基本理念とした「教育改革」を行うこととしました（図1）。そして、その中心に「高知大学医学部附属病院 臨床研究教育・人材育成センター」（以下本センター）を設置しました。



本センターには、厚生労働省（以下厚労省）および関連機関に出向し、国に対する職責を果たしてきた教員を要しています。本センターの教員たちが、医学部生を1・2年生の時期「early exposure」から、近い将来、自ら臨床研究を進捗できるようにka「塾・寺子屋方式」で「教育」すること（図2）、そしてその「教育」過程でとくに有能な「人材を育成」して厚労省および関連機関に出向することにより、本センターは研究分野を逞しく駆動させる「エンジン」となり、本学そしてわが国に貢献するものと確信しております。



以上のように本センターは、本学が「研究文化」に溢れる「アカデミア」、そして「地方の雄」として大きく発展することに貢献するよう全力を尽くします。

これ迄にどこにもないこの取り組みが、大きな魅力となることで、本学が幕末の志士のような活気溢れる青年が集う「アカデミア」になると考えます。更には、若き人材の本県離れを抑止するとともに、本学のみならず土佐の地から多くの有能な人材を輩出することを志しています。

本来であれば、本センターは、本学や国からの研究補助・外部研究基金等で運営すべきところですが、全国でも初めての斬新なセンターであり、それを機能的に運営するとともに多くの意気盛んな青年を「教育」し「人材育成」するには、多額の費用を要するのが実情であります。この基本理念を押し進めるにあたり、本センターの潤滑な運営に私共は憂慮しております。

つきましては、誠に恐縮ではございますが、かかる事情をご賢察いただき、有志の皆様におかれましては、格別のご高配とご援助を賜りますようお願い申し上げます。

高知大学医学部臨床研究教育・人材育成センター  
センター長 藤枝 幹也 拝